

# シベリア抑留から生還した元兵士 「平和憲法は絶対死守すべき」

## 吉川正夫元町長の戦争体験取材記から

先の大戦で徴兵され、軍隊生活や戦地の経験をした方々は八十歳を越えています。平和憲法が危険にさらされている今、その経験を語り継ぐことは緊急に大切なことになっていきます。

このたび吉川正夫さんが出征同期生からの取材記事を寄せてくださいました。

その中で、その同期生の方は、詳細にシベリア抑留の辛酸な体験を語った後で、

「最近憲法改正の動きが一部にあるやに懸念されているが、どう思いますか」との吉川さんの質問に、「そのような動きは大変残念なことである。世界に誇り得る平和憲法は絶対に死守すべきと思う。戦争体験者として悲惨な戦争は絶対に回避すべきである。」

幸い元気に帰国できた事は奇跡以外の何物でもない。待ちに待った帰国、舞鶴の土を踏んだあの感激は終生忘れることはできない。いまは戦友の「冥福」と世界の平和をひたすら祈るのみです」と語っています。

なお吉川さんの取材記は長文ですので、他の方の体験談とともに「戦争体験特集」として「ユース臨時増刊号」を発行する計画です。みなさんの協力をお願いいたします。

吉川さんありがとうございました。

## 「ある老人との会話」

### 堤光円寺住職 渡辺 豊さん

一週間ほどの前、以前から約束のあった西浦の或る地区の公民館主催で開催された老人クラブと地区民の集会にお招き頂いた。老若男女六十名ぐらいの集会であった。お話と指人形劇約一時間半を終わって主催者が何か質問が有ったらと、応ずるように老人が手を挙げた。聞き終わった感想を述べた。

地獄極楽、戦争と平和、不幸と幸せ、身につまされて感じ入った。私は第二人戦死している。一人は妻子を残してである。国の為だと諦めもしたが、戦争が終わってみると聖戦だと聞かされていた戦争が侵略だったと知って一層の口惜しさ

が込みあげた。そのうちに平和憲法が出来て軍隊がなくなり、戦争も放棄した真に平和な日本が誕生した。多くの命が犠牲になったが二人の弟は仏様のお働きをしてくれた。感謝している。

あなたはお話された中で、日本の平和と仕合せは憲法九条を守ることにあると言われたが、九条とは」と問った。

九条を守る活動に参加して日も浅く、老人の納得する説明はできなかつた様だが、乏しい知識を振り絞って説明した。安易に居たけれども九条に就いてもっと勉強しなければと思った。

心強し、励まし

### 「お手伝いしますよ」

#### 元水原町教育委員長 望月正夫さん

九条を守る会の一活動は、今の政局に「憲法の危機」を感じている人たちに励ましを与え、会に加入する人も増えています。そのことがまた私たちを励ましています。

先日、元水原町教育委員長をなさっていた望月正夫さんが、憲法を守る活動は大事だし、大賛成だ。私もできることは、お手伝いしますから、何でも言ってください」と会の事務をしている会員に声をかけてくださいました。たいへんありがたいことです。励まされます。



### 有権者の半分は女性よ！

## 語り合っ、学びあって 一女性集会準備中一

戦争になると、大きな犠牲を払うのは女性、子供、老人たちです。戦争の日々は女性の涙で曇る日々でした。

いままた戦争の匂いの中にあつて、女性は黙っていられない、いや黙つていてはいけなないと、守る会の女性会員が立ち上がるようになっていきます。

今、九条を守る女性集会」を準備中です。

## 山口・安野地区集会

### 一分田地域集会も準備中一

山口・安野地区にお住まいの会員のご協力の結果、次のように集会が開かれることになりました。

日時・07年1月21日(日) 13:30より

会場・水原公民館日本間

講師・九条の会から/戦争体験者に交渉中

### お出かけください